

科学研究費助成事業（基盤研究（S））公表用資料  
〔平成29年度研究進捗評価用〕

平成26年度採択分  
平成29年3月13日現在

宗教テキスト遺産の探査と総合的研究  
—人文学アーカイブス・ネットワークの構築

課題番号：26220401

阿部 泰郎 (Yasuro ABE)

名古屋大学・大学院文学研究科・教授



研究の概要

日本中世文学研究のフロンティアである寺院研究の探査と名古屋大学COEによる「テキスト学」構築を通じて開拓した「宗教テキスト学」の方法を用いて、古典籍から儀礼芸能、絵画などを更に包括的に価値付けることを目指す。具体的には、日本に伝存する宗教テキストをアーカイブス化し、それらを相互に連絡するべく、研究者相互のネットワーク構築を目的とする。

研究分野：人文学

キーワード：宗教テキスト学、人文学アーカイブス・ネットワーク、宗教遺産学

1. 研究開始当初の背景

日本は、宗教に関する多彩な遺産の宝庫であり、それは古典籍から儀礼芸能など生きた伝承や空間環境にまで及ぶ。日本中世文学研究のフロンティアとして寺院経蔵をフィールドに、仁和寺守覚法親王による「御流」聖教の探査から、真福寺大須文庫の知的体系の復原に至った（科研基盤（B）「中世寺院の知的体系の研究」、同「中世宗教テキスト体系の復原的研究」、基盤（A）「中世宗教テキスト体系の総合的研究」）。その成果としては、『真福寺善本叢刊』第一期・第二期全24巻が挙げられよう。そこから宗教に根ざすアーカイブスの可能性が展望された。一方、名古屋大学文学研究科が21世紀COEとGCOEを10年間継続して構築した「テキスト学」の最先端としての「宗教テキスト学」を学術領域として体系化することが求められた。

2. 研究の目的

「宗教テキスト」の諸位相を、従来の専門分野の研究成果を生かしつつ総合して、全国的かつ国際的な研究協力を通じて、対象となる各水準における未来の文化遺産としての価値を解明（読解・解釈）する。そのうえで、人文学分野間の連携と人文学全体にわたる有意義なアーカイブス調査・研究ネットワークの構築を目指す。この活動は、中部地域に集中して所在する世界的な文化遺産というべき経蔵・文庫・資料群のアーカイブス化を行うなかで実践される。

3. 研究の方法

各寺社・文庫・図書館・自治体・個人の所蔵として、社会に伝来する「宗教テキスト」の調査研究を人文諸学の分野融合と連携により推進する。探査においては、最新の技術を援用しながら、その全体系を把握・復原する作業を、文学・歴史・美術・民俗等の文化遺産に関わる研究者と連携しつつ進め、その成果の公開を通じて社会に還元し、新しい文化価値を人文学により創成する。特に、「宗教テキスト」諸領域を多面的に示す展覧会が、学術研究の成果をまとめて社会に還元する手段として相応しいと考え、開催を企画実行する。

4. これまでの成果

各地に散在する貴重な「宗教テキスト」アーカイブスの未知の価値を発見し、その国際・分野横断による研究を通じて人文学に普遍的なテキスト学の構築に向けた議論を行った。具体的には以下のとおりである。

○国宝称名寺聖教中の禅籍と共に真福寺大須文庫聖教を多く収める『中世禅籍叢刊』全10巻を刊行するなかで豊かな知見を得ることができ、真福寺大須文庫における「禅籍」群から全く新しい中世宗教世界の実態を拓いた。また、高麗教蔵に関係する聖教についても関心が集まり、名古屋大学・東国大学仏教学術院・高麗大蔵経研究所という日韓の研究機関で共同研究を行い、内容の検討とともにそのアーカイブス化についての議論をすすめている。

○猿投神社聖教典籍については、豊田市とともに調査研究をすすめ、電子アーカイブス化を進展させた。それらの過程で、中世漢籍の形成と流通について筆写者が「呉三郎入道」であるなどの新知見が得られた。また、聖教中に真福寺と関わりのあるものが見いだされ、今後の真福寺の安養寺流聖教の復元的考察に資するものと考えられる。

○蓬左文庫については、朝鮮本の全貌解明に協力し、特別展「豊かな朝鮮王朝の文化」展開催およびその図録作成に貢献した。また、朝鮮本の中心をなす重文『高麗史節要』の撮影を行い、日韓共同研究については共同アーカイブ化に向けて、将来のデータ共有を目指し検討を行っている。

○岩瀬文庫の全蔵書についてのディレクターカタログ（解説・考証を付した総合目録）が完成している。また、所蔵の絵本・絵巻を中心とした研究により得られた新知見を元に、「越境する絵ものがたり」展を開催し、その成果を市民に広く知ってもらうために研究フォーラムも催した。

○奥三河花祭については、「花祭アーカイブス」構築による、奥三河民俗祭儀芸能「花祭」の映像と伝来文献の統合による多元的アーカイブスを構築している。

○物語絵巻と絵解きについては、白描絵巻『ちごいま』と聖徳太子絵伝を中心に研究を進めている。『ちごいま』は新出本を踏まえた全注釈を完成させ、現在出版するべく編集中である。本年度には、それらの研究成果をもとにグローバル展開プログラムに採択されている。聖徳太子絵伝については、諸寺院の注目される新出資料を含めてコンテンツ化をおこなっている。この2つのプログラムは国際ワークショップを連続して開催するなかで国際的に展開しており、それを踏まえて、平成 29 年度より新たに研究拠点形成事業 Core to Core プログラムに採択された。

以上、愛知県内の寺社、文庫、民間の宗教テキストの探査によるアーカイブス化・構築の過程での研究成果は、愛知県史編さん室と協力し『愛知県史 別編 文化財 4 典籍』として公刊・頒布し、2015 年には愛知県史編さん室が共催して公開講演会も主催し、県民・社会に公表している。また、猿投神社の典籍聖教については、豊田市史編さん室と共同で『猿投神社の典籍』を公刊・頒布している。この他にも、学術上の研究成果は、代表者・研究分担者・連携研究者により各学会誌・論文集等に発表した。

この宗教テキスト文化遺産の研究を中核とする、人文諸学・諸分野連携の国際共同研究拠点形成を目指し、名古屋大学文学研究科に人類文化遺産テキスト学研究センター（CHT）を設置した。地中海歴史考古学や西洋美術史学と協働し、テキスト学により多元

的に諸領域の人類の文化遺産の普遍的文法を見いだすため、コロンビア大学、ハーバード大学、コレージュ・ド・フランス、ストラスブール大学、ベルリン自由大学、ハイデルベルク大学との複数のテーマによる共同研究を開始している。

## 5. 今後の計画

○研究分担者の所属する人間文化研究機構の諸機関（特に国文研と歴博）および本科研にとり重要な宗教テキストを所蔵もしくはフィールドとする神奈川県立博物館・金沢文庫等と連携した、共同研究とその成果としての連携展示「列島の祈りー日本の宗教儀礼とそのテキスト」を、平成 30 年度に開催することで合意し、各展示主題・領域・展示リストを作成している。29 年度はその図録作成に取り組む。本企画を実現することにより、本科研の主題である宗教テキストの儀礼と図像との複合を立証することができると考えられる。なお、図像に関しては、平成 28 年度に岩瀬文庫・安城歴博の展覧会で「絵ものがたり」「絵伝の絵解き」をそれぞれ主題化したフォーラムを開催しており、社会への成果公表を果たしている。

○各地の文庫・経蔵・資料群のアーカイブス化をすすめていく。特に大須文庫は、所蔵者と十分に合意形成をしながら、全体の目録を公開することを目指す。

○出版物としては、まず『中世禅籍叢刊』（全 12 巻、28 年度までに 10 巻分刊行）を完結させることを目指す。そのうえで、大須文庫研究の成果報告として、新たに『真福寺神道叢刊』の発刊を予定している。また、本科研の成果報告として『中世日本の世界像』と論集『日本中世の宗教世界』の刊行を計画している。

## 6. これまでの発表論文等（受賞等も含む）

- ・中世禅籍叢刊編集委員会編『中世禅籍叢刊』全 12 巻（予定）、臨川書店、2013～2016 年（現在 10 巻まで刊行）
- ・『愛知県史 別編 文化財 4 典籍』、愛知県、2014 年
- ・豊田市史研究特別号『猿投神社の典籍』、豊田市、2016 年
- ・『越境する絵ものがたり』、西尾市岩瀬文庫、2016 年
- ・歴博研究報告 188 集『日本における儀礼テキストの総合的研究』、国立歴史民俗博物館、2017 年

ホームページ等

HP: <https://www.lit.nagoya-u.ac.jp/cht/>

Mail: [nagoya.cht.archives@gmail.com](mailto:nagoya.cht.archives@gmail.com)